

岩崎秀雄 + Oron Catts “Biogenic Timestamp”

(PCのマザーボード、シアノバクテリア、ゲルライト、培地、ガラス、フラスコ) (2012年～)

パソコンのマザーボード（主要な電子回路基板）が、腐食しながら、ミネラル分を培地中に放出している。それをゆっくりと吸収しながら、作者が分離したシアノバクテリアが育っている。それらが繁茂したのち、マザーボードのミネラルおよび培地中のカルシウム分が微生物の中に蓄えられ、生物堆積作用（石灰化）により、新たなフォルムに転生していく。このように、一旦は人間によって形を変えられた物質が、時間の蓄積の中で、再び新たな形に（biogenicに）変換されていき、微生物の生の痕跡は新たな造形物となる。100年後、1000年後には、どのようなランドスケープに転生するだろう。“Biogenic Timestamp”は、地質学的な時間と生物学的な時間を切り結び、生命が転生させてきた地殻を利用する人間の欲望と営みを反転させてみる試みでもある。西オーストリアの太古の地層やストロマトライト、鉄鉱の採掘場などを旅しながら、僕たちの探究は今も続いている。

(表紙撮影：山本渉)

*このプロジェクトは、米国科学振興財団および英国物理工カウンスル（Synthetic Aesthetics）、文部科学省科学研究費補助金、およびオーストラリア芸術カウンスルの援助を頂いた。“Project Genesis”展（Ars Electronica Center, オーストリア, 2014）、オープンスペース2013（NTT InterCommunication Center, ICC, 2013-2014）、BIOART.JP-バイオメディア・アート展（3331 Art Chiyoda, 2013）、生命美学展（早稲田大学, 2012）など国内外で展示されている。また、このプロジェクトについては、下記の美学論文も発表している。

Catts, O & Iwasaki, H (2014) “The Biogenic Timestamp” . in A Ginsbergほか (eds), “Synthetic Aesthetics: Investigating Synthetic Biology's Designs on Nature” . MIT Press, pp. 195-204.

岩崎秀雄 Hideo Iwasaki 表現者 / 研究者

2007年より生命をめぐる科学・思想・芸術に関わる表現・研究のプラットフォームmetaPhorestを運営している。著書に『<生命>とは何だろうか：表現する生物学、思考する芸術』（講談社2013）、主な作品にaPrayer（人工細胞の慰霊、茨城県北芸術祭2016）、Culturing <Paper>cut（ICCなど2013）、Biogenic Timestamp（アルスエレクトロニカセンター, ICC, 2013-）、metamorphorestシリーズ（オランダパーパービエンナーレ2010、ハバナビエンナーレ2009ほか）など。

オロン・カツツ Oron Catts アーティスト / 研究者

1996年に組織培養工学をベースとするアート・プロジェクトTissue Culture & Art Projectを開始、2000年からは西オーストラリア大学に生物学に関する芸術の制作・研究機関SymbioticAを創設し、バイオアート・シーンを世界的に牽引してきた。SymbioticAは西オーストラリア大学のCOEとしてバイオアートの学位を出すまでに至っている。アルス・エレクトロニカ（ハイブリッド部門）グランプリほか受賞多数、国際的に最も影響力のあるアーティストの一人。岩崎とは『医学と芸術展』（森美術館）、Synthetic Aestheticsプロジェクト（本作）などでたびたび共同制作を行っている。

写真：本プロジェクトの調査のため、25億年前に出来たと言われる西オーストラリアの地層（Hamersley Basin）を探索するCattsと岩崎（2013年）

